

武蔵野大学学術機関リポジトリ Musashino University Academic Institutional Repository

# 「自己の探求」プログラムの効果検証：「ジェネリック・スキル」の評価ツールを用いて

著者	中込 啓一, 中村 剛
雑誌名	The Basis : 武蔵野大学教養教育リサーチセンター 紀要
号	6
ページ	77-92
発行年	2016-03-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1419/00000164/">http://id.nii.ac.jp/1419/00000164/</a>

## 「自己の探求」プログラムの効果検証

—「ジェネリック・スキル」の評価ツールを用いて—

中込 啓一・中村 剛

### 1. はじめに

近年、「人間力」<sup>1)</sup>、「就職基礎能力」<sup>2)</sup>や「社会人基礎力」<sup>3)</sup>など政府および産業界から、学校教育終了後に社会で活躍するための能力が広く議論されてきた。大学教育に関しては、社会から求められる「学士力」<sup>4)</sup>が教育界に提示されている。

「人間力」は、平成15年内閣府から出された「人間力戦略研究会報告書」の中で、「社会を構成し運営するとともに、自立し一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義され、「職業生活面」に焦点を当てた提言がなされている<sup>1)</sup>。「就職基礎能力」は、平成16年厚生労働省より「企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力」と定義され、特に事務系、営業系に焦点を置いた「コミュニケーション能力、職業人意識、基礎学力、資格取得、ビジネスマナー」から構成されている<sup>2)</sup>。これに基づき、平成16年から21年まで同省は「YESプログラム（若年者就職基礎能力修得支援事業）」を実施した<sup>5)</sup>。「社会人基礎力」は、平成17年経済産業省において、「組織や地域社会の中で人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」で、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つ柱の中に、12の能力を含むものと定義した<sup>3)</sup>。平成16年から27年の現在まで、同省は「社会人基礎力グランプリ」という、大学研究室、ゼミ単位に対しての事業を実施している<sup>6)</sup>。一方、これら就業を念頭に置いた能力に加えて、平成20年には文部科学省より、大学終了までに「学士力」として、社会が「学士」に求める能力を定義した<sup>4)</sup>。それは、1. 知識・理解、2. 汎用的技能（(1) コミュニケーション・スキル、(2) 数量的スキル、(3) 情報リテラシー、(4) 論理的思考力、(5) 問題解決力）、3. 態度・志向性（(1) 自己管理能力、(2) チームワーク、リーダーシップ、(3) 倫理観、(4) 市民としての社会的責任、(5) 生涯学習力）、4. 統合的な学習経験と創造的思考力、などである<sup>4)</sup>。尚、文部科学省では「人間力」、「社会人基礎力」、「就職基礎力」をわかりやすくまとめている<sup>7)</sup>。

これらの提言や提案の根底に流れる背景として、若者が将来の夢や希望を持ち、職業に従事し、国や社会の構成員としての役割を担っていくことが、社会から大きく求められていると考えられる。これらを成就していく「汎用的能力」として、コミュニケーション能力や、実行力、考える力、集団で働く力等が大変重要であることは、万人が認めるところである。川上らは「汎用的能力」として、「ジェネリック・スキル」を定義し、自己評価測定ツールを開発した（平成19年度文部科学省現代GP「総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト」(大阪樟蔭女子大学)）<sup>8) 9)</sup>。

本学の「BASIS」では入学直後に、「自己基礎力を養うこと」の一環として、「自己理解・他者理解」を目的とする「自己の探求」という科目を開講している。これは、自己理解を深

め、他者が自己理解をすることへの協力をし、グループがチームへと成長するプロセスを歩む「チームビルディング」体験をねらいとしたプログラムである。そして、中村らにより前出の「社会人基礎力」に効果があることが検証されている<sup>10)</sup>。今回、この「自己の探求」が、川上らによる「ジェネリック・スキル」にどのように影響するか検討したので報告する。本稿は、1. はじめに、2. 方法（調査方法、調査内容、解析方法）、3. 結果と考察（集計データ概要、「ジェネリック・スキル」の属性別変化、「満足度」の属性別変化）、4. まとめから構成される。

## 2. 方 法

### 2.1. 調査方法

武蔵野 BASIS 科目、「自己の探求」の効果を、「ジェネリック・スキル」と「満足度など」（生活・人間関係・就職意欲）の観点から探索的に検討した。

対象は武蔵野大学全学科 1 年生、実施時期は、2014 年 4～5 月、2 日間の集中授業受講前と受講後の 2 回、アンケート方式で実施した。プログラム担当教員から、調査の主旨（授業改善と研究が目的で個人の成績等には反映されない）を説明され、質問表とマークシート回答紙が配布され、回答後回収された。

### 2.2. 調査内容

「ジェネリック・スキル」という評価ツールは、「気づく力」、「考え抜く力」、「聴き・伝える力」、「やり遂げる力」の 4 つのカテゴリーからなる。各カテゴリーは 5 つの質問を含み、計 20 問から構成される<sup>6)</sup>。さらに筆者らは、学生の「満足度など」を探索する目的で、「生活満足度」（学内と学外の 2 つの質問）、「人間関係満足度」（学内と学外の 2 つの質問）、「就職意欲」、の 3 つのカテゴリー、5 つの質問を独自に加えた。表 1 に合計 25 問の質問内容を示した。（通常実施しているアンケート（質問数 45 問）に、今回の質問を加えているために、質問番号は 46 から 70 となっている。）

「気づく力」は自己認識や自分と他者との違いを認識し理解すること、「考え抜く力」は自分の考えやものごとを深く考えること、「聴き・伝える力」は他者の意見を聴き理解し、自分の意見を表わすこと、「やり遂げる力」はものごとを粘り強く、期間までに完了することなどを意図した質問内容である。

### 2.3. 解析方法

生データは、学内で読み取り機により作成した。データは第三者機関の統計解析専門機関「株式会社エスミ（東京、中野）」に送られ、受講前・後のデータ突合、データのクリーンナップ、固定化、解析がなされた。

データは 1. 性別、2. 学科、3. 学年（1 学年）、4. 出身地、5. 部活経験の 5 つの基礎データおよび質問項目 25 問全てに回答し、受講前・後で個人データが突合できたものを有効解析データとして固定された。

データは Likert scale 5 point 法に則り、回答は「まったく思わない」1 から「強く思う」5 へとスコア化し、数値扱いとした。「ジェネリック・スキル」(質問 46-65) の各カテゴリーのスコアは 5 から 25、4 カテゴリー合計 (以下「GS」) で 20-100 の範囲となる。同様に、「生活の満足度」(質問 66 (学内) + 質問 69 (学外))、「人間関係の満足度」(質問 67 (学内) + (質問 68 (学外))) の各カテゴリーのスコアは 2 から 10、「就職意欲」(質問 70) は 1 から 5 の範囲となり数値として集計された。

統計手法は、データに応じて、t 検定、 $\chi^2$  検定、一元配置分散分析、多重解析、ピアソンの相関係数を用いた。p 値が  $p < 0.05$  のものを統計的に「有意差がある」とした。また、有意差がないものは「n.s.」と表示している。

表 1 「ジェネリック・スキル」質問事項

【E】現在の学生生活で、あなたの自己評価に最も近いと思う番号に1つずつ○をつけてください。					
1「まったく思わない」、2「思わない」、3「どちらでもない」、4「思う」、5「強く思う」とします。					
※気づく力					
46. ものごとをいろいろな角度から見ている。	1	2	3	4	5
47. 自分の強み、弱みをわかっている。	1	2	3	4	5
48. 目標を設定し、そのために何が必要かを考えることができる。	1	2	3	4	5
49. 他者の意見や考え方との違いをわかっている。	1	2	3	4	5
50. 好奇心をもって、授業にのぞむことができる。	1	2	3	4	5
※考えぬく力					
51. ひとつの考え方にこだわらず、柔軟に考えることができる。	1	2	3	4	5
52. 「なぜ、どうして」を常に意識し、論理的な考え方ができる。	1	2	3	4	5
53. 情報を整理し、それに基づいて考えることができる。	1	2	3	4	5
54. 自分の考えを文章の形で表現することができる。	1	2	3	4	5
55. 授業で学んだことと現実社会との関係性について考えることができる。	1	2	3	4	5
※聴き・伝える力					
56. 相手の話を真剣に聴くことができる。	1	2	3	4	5
57. 立場や価値観の異なる人の意見を尊重することができる。	1	2	3	4	5
58. 自分の考えや感情を適切な形で相手に伝えることができる。	1	2	3	4	5
59. わかりやすく話すことができる。	1	2	3	4	5
60. 多くの人前で話すことができる。	1	2	3	4	5
※やり遂げる力					
61. 責任を持った言動ができる。	1	2	3	4	5
62. 集中して授業に望むことができる。	1	2	3	4	5
63. 継続力があり、結果、結論を出すまで取り組むことができる。	1	2	3	4	5
64. 結果について自己評価を行い、次の取り組みに活かすことができる。	1	2	3	4	5
65. 時間、期限を守ることができる。	1	2	3	4	5
※満足度					
66. 大学での授業、学習、勉強が楽しい。	1	2	3	4	5
67. 大学での人間関係 (部活、サークル、交友、教員、その他) に満足している。	1	2	3	4	5
68. 大学以外での人間関係 (家族、アルバイト、外部の友達等) に満足している。	1	2	3	4	5
69. 今の学生生活全般 (全てを含む) は楽しい。	1	2	3	4	5
70. 大学卒業後は、就職したいと真剣に考えている。	1	2	3	4	5

\* 質問番号は、通常質問に加えているので、45~70 となっている

### 3. 結果と考察

#### 3.1. 集計データ概要

固定した有効解析データの集計データの概要を表2に示す。

回収データ1979、有効解析データとして固定できたのは1822、有効解析率92.1%であった。ちなみに平成26年5月の該当学科1年生の在籍数は2084であるので、網羅率は87.4%となる。この調査は、ほぼ全数調査に近く、データそのものが母集団の実態をほぼ反映しているとも考えられるが、補強のための推計解析を行っている。またデータが多岐にわたるため、各項目において結果と考察を織り込んで述べていく。

本学「学科」で、全体の10%以上を占める学生数が多い5学科は、「グローバルコミュニケーション学科（以下GC学科）」、「人間科学科」、「経営学科」、「日本文学文化学科」、「児童教育学科」であった。「女性」の数が多い学科は、「GC学科」、「人間科学科」、「児童教育学科」、「日本文学文化学科」、同様に「男性」は、「経営学科」、「法律学科」、「経済学科」であった。本学全体の「男女」比は4:6で女性の比率が高く、「学科」では「男女」間の比率に有意差があった。「女性」比率の高い学科は、「看護学科」で9割、「GC学科」、「児童教育学科」、「社会福祉学科」、「人間科学科」、「日本文学文化学科」で約7割である。一方、「男性」比率の高い学科では、「環境学専攻」、「経済学科」、「政治学科」、「法律学科」で7~6割である。

「出身地」は、「関東」出身者が約8割、「中部」、「東北」地方を加えると本学学生の9割を占める。「九州・沖縄」、「北海道」、「関東」出身者は、「女性」の比率が本学全体の平均より高いが、「出身地」で「男女」間の比率に有意な差はない。

「部活経験」は、「男女」間に有意な差があった。全体の約6割が「体育系」経験者であり、特に「男性」では実に8割と高く、「女性」の5割は「体育系」部活経験者である。一方、全く部活経験「なし」の学生は、全体で6%と極めて低かった。

本学は、全体として「女性」の割合が高く、「学科」により「男女」の比率に有意差がみられた。「出身地」は、「関東」出身者が大部分であるが、「出身地」は「男女」間の比率で有意差はない。「部活経験」者は約9割、「男女」間で有意差がみられ、「男女」とも「体育系」部活経験者が多く、彼らの特性を引き出すような学習指導の実践により、大きな教育効果が期待できると考えられる。

#### 3.2. 「自己の探求」受講による「ジェネリック・スキル」の変化

##### 3.2.1. 「属性」による受講前・後の変化

集計データは「全体」、「性別」、「学科」、「出身地」、「部活経験」の5つセグメントに分類され、セグメントは合計30の「属性」から構成される。表3に「自己の探求」受講前・後の「ジェネリック・スキル」の各カテゴリーおよび合計スコア（以下「GS」）を示す。受講前・後のスコアで有意差のある「属性」を網掛けで示し、差がないものは「n.s.」と記載した。また、受講前の「属性」のデータを属性の「基本特性」、受講前・後のデータの差を「変化量」と記す。

「ジェネリック・スキル」の各カテゴリーおよび「GS」のスコアは、「北海道」出身者を

表2 集計データ概要

		全体		男性		女性		女性比
セグメント	属性	n	全体 %	n	全体 %	n	全体 %	女性 %
性別	男	685	37.6%	685	100.0%	0	0.0%	0.0%
	女	1137	62.4%	0	0.0%	1137	100.0%	100.0%
	全体	1822	100.0%	685	100.0%	1137	100.0%	62.4%
		全体		男性		女性		
セグメント	属性	n	全体 %	n	全体 %	n	全体 %	女性 %
学科	法律学科	144	7.9%	89	13.0%	55	4.8%	38.2%
	政治学科	94	5.2%	60	8.8%	34	3.0%	36.2%
	経済学科	108	5.9%	70	10.2%	38	3.3%	35.2%
	経営学科	199	10.9%	108	15.8%	91	8.0%	45.7%
	日本文学文化学科	187	10.3%	54	7.9%	133	11.7%	71.1%
	GC 学科	206	11.3%	51	7.4%	155	13.6%	75.2%
	人間科学学科	200	11.0%	53	7.7%	147	12.9%	73.5%
	社会福祉学科	131	7.2%	34	5.0%	97	8.5%	74.0%
	環境学専攻	63	3.5%	42	6.1%	21	1.8%	33.3%
	都市環境専攻	47	2.6%	17	2.5%	30	2.6%	63.8%
	児童教育学科	188	10.3%	48	7.0%	140	12.3%	74.5%
	薬学科	146	8.0%	51	7.4%	95	8.4%	65.1%
	看護学科	109	6.0%	8	1.2%	101	8.9%	92.7%
	全体	1822	100.0%	685	100.0%	1137	100.0%	62.4%
		全体		男性		女性		
セグメント	属性	n	全体 %	n	全体 %	n	全体 %	女性 %
出身地	北海道	19	1.0%	6	0.9%	13	1.1%	68.4%
	東北地方	96	5.3%	41	6.0%	55	4.8%	57.3%
	関東地方	1403	77.0%	515	75.2%	888	78.1%	63.3%
	中部地方	135	7.4%	59	8.6%	76	6.7%	56.3%
	近畿地方	30	1.6%	13	1.9%	17	1.5%	56.7%
	中国地方	23	1.3%	11	1.6%	12	1.1%	52.2%
	四国地方	13	0.7%	6	0.9%	7	0.6%	53.8%
	九州・沖縄地方	51	2.8%	13	1.9%	38	3.3%	74.5%
	留学生	52	2.9%	21	3.1%	31	2.7%	59.6%
	全体	1822	100.0%	685	100.0%	1137	100.0%	62.4%
		全体		男性		女性		
セグメント	属性	n	全体 %	n	全体 %	n	全体 %	女性 %
部活経験	体育会系	1150	63.1%	539	78.7%	611	53.7%	53.1%
	文科系	422	23.2%	62	9.1%	360	31.7%	85.3%
	サークル	51	2.8%	18	2.6%	33	2.9%	64.7%
	複数活動	90	4.9%	25	3.6%	65	5.7%	72.2%
	なし	109	6.0%	41	6.0%	68	6.0%	62.4%
	全体	1822	100.0%	685	100.0%	1137	100.0%	62.4%

：セグメント内で男女の比率に有意な差がある（ $\chi^2$  検定  $p<0.05$ ）

表3 「ジェネリック・スキル」のスコア

セグメント	属性	ジェネリック・スキルスコア										GS(46-65)																				
		カテゴリリー（質問番号）					やり遂げる力(61-65)					スコア値の範囲(20-100)																				
		考え抜く力(51-55)					スコア値の範囲(5-25)					スコア値の範囲(5-25)																				
人数	基本特性	有意差	標準受検後偏差	標準変化量	標準受検後偏差	基本特性	有意差	標準受検後偏差	標準変化量	標準受検後偏差	基本特性	有意差	標準受検後偏差	標準変化量	標準受検後偏差	基本特性	有意差	標準受検後偏差	標準変化量	標準受検後偏差												
全体	全体	1822	1721	282	1890	290	169	283	1532	304	1773	323	241	299	1619	306	1898	321	279	293	1609	319	1824	337	215	295	6481	961	7385	1072	904	884
性別	男性	685	1723	310	1907	308	184	297	1537	320	1796	332	259	295	1622	338	1919	333	298	315	1586	339	1834	352	248	310	6468	1048	7456	1111	988	909
	女性	1137	1720	264	1879	278	159	274	1529	294	1759	317	231	300	1617	285	1886	313	269	279	1622	305	1818	327	195	284	6488	906	7342	1045	854	865
学部	法政学科	144	1730	321	1924	323	194	314	1582	352	1840	345	258	313	1586	346	1906	365	320	333	1566	346	1849	371	283	341	6464	1110	7519	1196	1056	945
	政治学科	94	1714	335	1888	297	174	308	1564	358	1797	336	233	312	1605	355	1887	327	282	330	1530	355	1815	341	285	331	6413	1171	7387	1111	974	1041
学系	経済学科	108	1723	289	1918	299	194	304	1568	282	1816	308	248	262	1622	355	1947	325	325	345	1636	321	1847	355	211	289	6549	989	7528	1098	979	934
	経営学科	199	1715	298	1871	298	157	299	1535	298	1782	325	248	313	1621	296	1915	328	294	300	1592	314	1823	352	231	315	6463	950	7392	1076	929	920
学科	日本文学文化学科	187	1664	296	1842	316	178	269	1547	310	1783	330	237	263	1594	333	1857	344	263	269	1558	341	1777	357	219	271	6363	1036	7259	1159	896	767
	GC学科	206	1745	267	1876	310	132	281	1522	304	1750	334	227	324	1660	287	1883	314	223	306	1652	306	1801	348	149	295	6579	944	7310	1143	731	956
学	人間科学科	200	1745	266	1885	265	140	256	1518	290	1735	285	217	284	1614	291	1893	295	279	269	1606	303	1812	303	207	276	6482	892	7324	915	842	789
	社会福祉学科	131	1708	266	1856	276	149	294	1511	276	1723	338	211	302	1643	252	1895	267	253	269	1630	295	1800	308	170	288	6492	838	7275	986	783	907
学	環境学専攻	63	1711	269	1889	287	178	260	1489	319	1781	331	292	279	1568	294	1848	342	279	337	1535	331	1751	335	216	246	6303	931	7268	1081	965	797
	都市環境専攻	47	1706	243	1923	245	217	254	1464	240	1711	271	247	219	1521	290	1836	314	315	255	1591	288	1809	252	217	250	6283	772	7279	884	996	699
出身地	児童教育学科	188	1745	271	1935	269	190	263	1543	288	1782	309	240	309	1689	295	1966	315	278	258	1669	333	1885	327	215	289	6645	954	7568	1032	923	847
	薬学科	146	1684	275	1864	269	179	288	1464	301	1725	311	261	315	1526	281	1821	308	295	290	1595	316	1816	345	222	309	6268	951	7266	1047	958	918
出身地	看護学科	109	1771	240	1950	247	180	285	1569	296	1833	341	264	308	1689	251	1975	296	286	264	1687	233	1906	297	218	256	6716	709	7664	988	949	819
	北海道	19	1763	304	1837	273	074	251	n.s.	1595	387	1795	297	200	254	1568	203	1816	291	247	255	1558	259	1737	304	179	218	6484	982	7184	1067	700
出身地	東北	96	1727	267	1957	278	230	280	1564	292	1810	294	247	299	1621	306	1903	302	282	282	1611	294	1827	313	216	305	6523	910	7498	998	975	849
	関東	1403	1712	282	1875	294	163	284	1521	303	1766	328	245	300	1612	302	1894	321	281	291	1602	325	1821	341	218	295	6448	963	7356	1081	907	882
出身地	中部	135	1750	292	1935	271	184	287	1556	302	1781	311	226	290	1619	329	1898	335	279	293	1637	306	1846	325	209	309	6562	954	7460	1026	898	906
	近畿	30	1693	236	1930	251	277	300	1523	355	1763	341	240	328	1627	365	1963	375	337	353	1553	304	1797	402	243	328	6397	932	7493	1175	1097	1018
出身地	中国	23	1774	308	1957	269	183	242	1561	324	1822	301	261	264	1630	344	1896	334	265	252	1535	330	1822	329	287	306	6500	1043	7496	1073	996	748
	四国	13	1769	371	1877	314	108	175	1577	317	1792	340	215	186	1669	345	1862	301	192	296	1577	332	1823	300	246	270	6592	1195	7354	1106	762	647
出身地	九州・沖縄	51	1724	267	1945	271	222	274	1543	239	1816	290	273	279	1671	284	1992	281	322	286	1657	306	1865	314	208	290	6594	876	7618	977	1024	879
	留学生	52	1829	271	1923	268	094	271	1646	319	1802	310	156	328	1737	316	1929	327	192	354	1746	221	1854	318	108	244	6958	948	7508	1095	550	946
部活動	体育会系	1150	1717	290	1897	289	179	287	1517	306	1775	323	259	305	1626	311	1906	322	280	296	1616	320	1838	330	223	299	6475	978	7416	1064	941	903
	文科学系	422	1724	259	1868	275	144	268	1550	287	1766	317	216	282	1593	289	1883	308	290	280	1594	320	1804	337	210	297	6460	896	7320	1026	860	838
部活動	サウナル	51	1749	282	1878	347	129	265	1580	300	1769	337	188	306	1665	293	1886	385	222	333	1616	297	1773	377	157	277	6610	969	7306	1255	696	920
	複数活動	90	1740	306	1926	310	186	295	1622	306	1821	337	199	278	1647	326	1924	320	278	282	1594	339	1812	388	218	274	6603	1027	7483	1176	880	780
部活動	なし	109	1719	275	1876	300	157	296	1526	327	1739	328	213	288	1605	296	1861	323	256	300	1603	291	1784	346	182	262	6452	973	7260	1141	807	902

各属性において受検前・後のスコア値が有意差あり (対応のあるt検定 P&lt;0.05)

除く、ほぼ全ての「属性」で受講後有意に高くなった。「変化量」も増加し、カテゴリーの平均では「聴き・伝える力」が2.79と高く、「気づく力」スコアが1.69と低い。「ジェネリック・スキル」は全体の受講者で受講後有意に高くなり、特にコミュニケーションに関連する部分に大きな効果があった。「聴き・伝える力」のスコアが高かったことについては、「自己の探求」のプログラム特性として、第一に「傾聴」についての体験セッションが大きく影響していることが考えられる。次にそれぞれの価値観が違うことが当然であり、その違いを互いに伝え合い、共有することの重要性を体験することも影響していると考えられる。また、中村らは「自己の探求」実施後は、「社会人基礎力」も含めて、学科に関係なくすべての項目が有意に向上した<sup>8)</sup>と報告しており、本結果も同様にこのプログラムの有効性を表わしている。

### 3.2.2. 各セグメント内および属性間の比較について

表3のデータを元に、①各セグメント内で「属性」間のスコアの有意差、②個々の「属性」同士の組み合わせについてのスコアの有意差を解析した。「性別」ではt検定、「学科」、「出身地」、「部活経験」でのセグメント内の検定は一元配置分散分析、「属性」同士の検定は多重比較を用いた。表4から表7に「ジェネリック・スキル」のスコアの結果を示す。セグメント内は、スコアの高い「属性」順に配置し、セグメント内で「属性」間のスコアに差がある場合は網掛けで示し、「属性」同士で差がある組み合わせを結線で示した。

#### ① 「全体」および「性別」の違い

表4に「全体」のデータおよび「性別」の結果を示す。

「性別」の「基本特性」として、「女性」は、「やり遂げる力」が「男性」より有意に高く、他のカテゴリーは「性別」で有意差がなかった。しかし、受講後「男性」は「考え抜く力」、「聴き・伝える力」、「GS」で、「女性」より有意に高くなった。「男性」の「変化量」は、「聴き・伝える力」、「やり遂げる力」、「GS」で「女性」より有意に大きく、「男性」は「自己の探求」に対して、非常に反応が良いことが示された。「女性」は比較的安定的な情緒や

表4 「ジェネリック・スキル」スコア（全体・性別）

セグメント	調査	ジェネリック・スキルスコア（全体・性別）															
		カテゴリー（質問番号）														GS 合計 (46-65)	
		属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差
全体	基本特性	全体	1822	17.21		全体	1822	15.32		全体	1822	16.19		全体	1822	16.09	
	受講後	全体	1822	18.90		全体	1822	17.73		全体	1822	18.98		全体	1822	18.24	
	変化量	全体	1822	1.69		全体	1822	2.41		全体	1822	2.79		全体	1822	2.15	
性別	基本特性	男性	685	17.23	n.s.	男性	685	15.37	n.s.	男性	685	16.22	n.s.	女性	1137	16.22	n.s.
		女性	1137	17.20		女性	1137	15.29		女性	1137	16.17		男性	685	15.86	
	受講後	男性	685	19.07	n.s.	男性	685	17.96		男性	685	19.19		男性	685	18.34	n.s.
		女性	1137	18.79		女性	1137	17.59		女性	1137	18.86		女性	1137	18.18	
	変化量	男性	685	1.84	n.s.	男性	685	2.59	n.s.	男性	685	2.98		男性	685	2.48	
		女性	1137	1.59		女性	1137	2.31		女性	1137	2.69		女性	1137	1.95	

：男女に有意差がある（ $\chi^2$ 検定  $p<0.05$ ）



考え方を示すのに対して、「男性」は環境や刺激に対して起伏の大きな反応を示す傾向がある。「男性」のこの傾向は、いい方向性へ導いた場合大きな成果を出せる可能性がある反面、逆の方向性に導くと不本意な結果も出やすいことが推察される。一方、中村らの報告では、「社会人基礎力」について、「自己の探求」実施前「男女」差を観察しなかったが、実施後全体得点で「考え抜く力」で、「女性」は「男性」有意に高くなった<sup>10)</sup>。今回との逆の結果は、質問内容に起因すると推察され今後検討が必要である。

## ② 「学科」の違い

表5に「学科」別の結果を示す。

「基本特性」として、「聴き・伝える力」、「やり遂げる力」および「GS」のスコアに、「学科」間の有意差があった。「看護学科」、「児童教育学科」、「GC 学科」など、人を中心に学習していく「学科」は、「環境学専攻」、「都市環境専攻」、「薬学科」などいわゆる理科系「学科」より「聴き・伝える力」や「GS」のスコアが高かった。「属性」同士の比較では、「聴き・伝える力」では、「薬学科」は「看護学科」、「児童教育学科」、「GC 学科」、「社会福祉学科」より、有意に低かった。「やり遂げる力」では、「看護学科」は「日本文学文化学科」や「法律学科」より有意に高かった。「GS」では、「看護学科」は「薬学科」や「日本文学文化学科」より有意に高く、また「児童教育学科」は「薬学科」と差が見られた。

受講後、全てのカテゴリーおよび「GS」のスコアに「学科」間で有意差があり、「属性」同士では「聴き・伝える力」のみで差がみられ、「薬学科」は「看護学科」や「児童教育学科」より有意に低かった。

「変化量」は、「やり遂げる力」のみで「学科」間の差がみられ、「政治学科」は「GC 学科」比べて、変化量が有意に高かった。

これらの結果から「基礎特性」として、コミュニケーション力が要求される「学科」は理科系「学科」に比べて、「ジェネリック・スキル」の合計スコア「GS」が高いことが明らかになった。「変化量」は、「学科」間の差があまりないにも関わらず、受講後に「全てのカテゴリーで「学科」間に有意差がでたことは、「自己の探求」の授業効果が「学科」の「基礎特性」に大きく影響された結果と考えられる。

例えば、「聴き・伝える力」で理科系「学科」の「変化量」が水準以上であっても、受講後、スコアの順位が上がらず、コミュニケーションがあまり得意でないと、学生は自己評価している。この結果は、理科系「学科」の受講時のコミュニケーションの特徴にも現れている。理論立てた思考をし、解答を求める傾向があり、それを他のメンバーに理解してもらおうというよりは、正論として伝えようとする受講生によれば、「なぜ理解してもらえない」「なぜ受け容れてもらえない」という強い疑問が残るらしい。これにより、他のメンバーとのコミュニケーションを遮断してしまう。この場合、理科系の思考特性が影響していることが考えられ、簡単に変動するカテゴリーではないと言える。また、受講前・後において、「考え抜く力」で、「法律学科」、「看護学科」、「経済学科」、「政治学科」、「日本文学文化学科」、「児童教育学科」、「経営学科」とスコアの上位順位が変化しないことも注目される。これらから、「学科」の弱点補強のためには、「属性」にあった教育方法の検討性が示唆される。

表5 「ジェネリック・スキル」のスコア (学科別)

セグメント	調査	カテゴリー (質問番号)										ジェネリック・スキルスコア (学科別)										GS 合計 (46-65)													
		気づく力 (46-50)					考え抜く力 (51-55)					聴き・伝える力 (56-60)					やり遂げる力 (61-65)					有意差					属性								
		属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差						
基礎	基本	看護学科	109	17.71		法律学科	144	15.82		看護学科	109	16.89		看護学科	109	16.87		看護学科	109	16.87		看護学科	109	16.87		看護学科	109	16.87		看護学科	109	67.16			
		児童教育学科	188	17.45		看護学科	109	15.69		児童教育学科	188	16.89		児童教育学科	188	16.89		児童教育学科	188	16.89		児童教育学科	188	16.89		児童教育学科	188	16.89		児童教育学科	188	66.45			
		GC 学科	206	17.45		経済学科	108	15.68		GC 学科	206	16.60		GC 学科	206	16.60		GC 学科	206	16.60		GC 学科	206	16.60		GC 学科	206	16.60		GC 学科	206	65.79			
		人間科学科	200	17.45		政治学科	94	15.64		社会福祉学科	131	16.43		経済学科	108	16.36		経済学科	108	16.36		経済学科	108	16.36		経済学科	108	16.36		経済学科	108	65.49			
		法律学科	144	17.30		日本文学文化学科	187	15.47		経済学科	131	16.22		社会福祉学科	187	16.30		社会福祉学科	187	16.30		社会福祉学科	187	16.30		社会福祉学科	187	16.30		社会福祉学科	187	64.92			
		経済学科	108	17.23		児童教育学科	188	15.43		経営学科	199	16.21		経営学科	199	16.06		経営学科	199	16.06		経営学科	199	16.06		経営学科	199	16.06		経営学科	199	64.82			
		経営学科	199	17.15		看護学科	109	15.35	n.s	人間科学科	200	16.14		人間科学科	200	16.06		人間科学科	200	16.06		人間科学科	200	16.06		人間科学科	200	16.06		人間科学科	200	64.82			
		政治学科	94	17.14		GC 学科	206	15.22		政治学科	94	16.05		政治学科	94	15.92		政治学科	94	15.92		政治学科	94	15.92		政治学科	94	15.92		政治学科	94	64.64			
		環境学専攻	63	17.11		人間科学科	200	15.18		日本文学文化学科	187	15.94		日本文学文化学科	187	15.92		日本文学文化学科	187	15.92		日本文学文化学科	187	15.92		日本文学文化学科	187	15.92		日本文学文化学科	187	64.13			
		社会福祉学科	131	17.08		看護学専攻	47	17.06		法律学科	144	15.86		法律学科	144	15.66		法律学科	144	15.66		法律学科	144	15.66		法律学科	144	15.66		法律学科	144	63.63			
		人間科学科	47	17.06		環境学専攻	63	14.89		環境学専攻	63	15.68		環境学専攻	63	15.68		環境学専攻	63	15.68		環境学専攻	63	15.68		環境学専攻	63	15.68		環境学専攻	63	63.03			
		薬学科	146	16.84		都市環境専攻	47	14.64		薬学科	146	15.26		薬学科	146	15.35		薬学科	146	15.35		薬学科	146	15.35		薬学科	146	15.35		薬学科	146	62.83			
		日本文学文化学科	187	16.64		薬学科	146	14.64		都市環境専攻	47	15.21		都市環境専攻	47	15.21		都市環境専攻	47	15.21		都市環境専攻	47	15.21		都市環境専攻	47	15.21		都市環境専攻	47	62.68			
		発展	特異性	看護学科	109	19.50		法律学科	144	18.40		看護学科	109	19.75		看護学科	109	19.06		看護学科	109	19.06		看護学科	109	19.06		看護学科	109	19.06		看護学科	109	76.64	
				児童教育学科	188	19.35		看護学科	109	18.33		児童教育学科	188	19.66		児童教育学科	188	18.85		児童教育学科	188	18.85		児童教育学科	188	18.85		児童教育学科	188	18.85		児童教育学科	188	75.68	
				法律学科	144	19.24		経済学科	108	18.16		経済学科	108	19.47		経済学科	108	18.48		経済学科	108	18.48		経済学科	108	18.48		経済学科	108	18.48		経済学科	108	75.28	
				都市環境専攻	47	19.23		政治学科	94	17.97		経済学科	199	19.15		経済学科	199	18.47		経済学科	199	18.47		経済学科	199	18.47		経済学科	199	18.47		経済学科	199	75.19	
				日本文学文化学科	187	19.18		看護学専攻	187	17.83		法律学科	144	19.06		法律学科	144	18.23		法律学科	144	18.23		法律学科	144	18.23		法律学科	144	18.23		法律学科	144	73.87	
				経済学科	63	18.89		児童教育学科	188	17.82		社会福祉学科	131	18.95		薬学科	146	18.16		薬学科	146	18.16		薬学科	146	18.16		薬学科	146	18.16		薬学科	146	73.87	
				政治学科	94	18.88		看護学科	199	17.82		人間科学科	200	18.93		政治学科	94	18.15		政治学科	94	18.15		政治学科	94	18.15		政治学科	94	18.15		政治学科	94	73.87	
				人間科学科	200	18.85		環境学専攻	200	17.80		政治学科	94	18.87		人間科学科	200	18.12		人間科学科	200	18.12		人間科学科	200	18.12		人間科学科	200	18.12		人間科学科	200	73.24	
				GC 学科	206	18.76		GC 学科	206	17.51		GC 学科	206	18.83		GC 学科	206	18.01		GC 学科	206	18.01		GC 学科	206	18.01		GC 学科	206	18.01		GC 学科	206	73.10	
				経営学科	199	18.71		人間科学科	200	17.35		日本文学文化学科	187	18.57		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	72.75	
				薬学科	146	18.64		薬学科	146	17.25		環境学専攻	63	18.48		環境学専攻	63	18.00		環境学専攻	63	18.00		環境学専攻	63	18.00		環境学専攻	63	18.00		環境学専攻	63	72.68	
		学	科	社会福祉学科	131	18.56		社会福祉学科	131	17.23		社会福祉学科	131	18.36		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	18.00		社会福祉学科	131	72.59	
日本文学文化学科	187			18.42		都市環境専攻	47	17.11		都市環境専攻	47	18.36		日本文学文化学科	187	17.77		日本文学文化学科	187	17.77		日本文学文化学科	187	17.77		日本文学文化学科	187	17.77		日本文学文化学科	187	72.59			
都市環境専攻	47			2.17		環境学専攻	63	2.92		経済学科	108	3.25		環境学専攻	63	17.51		環境学専攻	63	17.51		環境学専攻	63	17.51		環境学専攻	63	17.51		環境学専攻	63	72.26			
法律学科	144			1.94		看護学科	109	2.64		法律学科	144	3.20		法律学科	144	2.85		法律学科	144	2.85		法律学科	144	2.85		法律学科	144	2.85		法律学科	144	10.56			
経済学科	108			1.94		薬学科	146	2.61		都市環境専攻	47	3.15		都市環境専攻	47	2.83		都市環境専攻	47	2.83		都市環境専攻	47	2.83		都市環境専攻	47	2.83		都市環境専攻	47	9.96			
児童教育学科	188			1.90		法律学科	144	2.58		薬学科	146	2.95		薬学科	146	2.22		薬学科	146	2.22		薬学科	146	2.22		薬学科	146	2.22		薬学科	146	9.74			
看護学科	109			1.80		経済学科	108	2.48		経済学科	199	2.94		経済学科	187	2.19		経済学科	187	2.19		経済学科	187	2.19		経済学科	187	2.19		経済学科	187	9.65			
薬学科	146			1.79		経営学科	199	2.48		看護学科	109	2.86		看護学科	109	2.18		看護学科	109	2.18		看護学科	109	2.18		看護学科	109	2.18		看護学科	109	9.58			
環境学専攻	63			1.78		都市環境専攻	47	2.47	n.s	政治学科	94	2.82		政治学科	94	2.17		政治学科	94	2.17		政治学科	94	2.17		政治学科	94	2.17		政治学科	94	9.49			
日本文学文化学科	187			1.74		児童教育学科	188	2.40		環境学専攻	63	2.79		環境学専攻	63	2.16		環境学専攻	63	2.16		環境学専攻	63	2.16		環境学専攻	63	2.16		環境学専攻	63	9.29			
政治学科	94			1.74		日本文学文化学科	187	2.37		人間科学科	200	2.79		人間科学科	188	2.15		人間科学科	188	2.15		人間科学科	188	2.15		人間科学科	188	2.15		人間科学科	188	9.23			
学	科	経営学科	199	1.57		政治学科	94	2.33		児童教育学科	188	2.78		児童教育学科	188	2.15		児童教育学科	188	2.15		児童教育学科	188	2.15		児童教育学科	188	2.15		児童教育学科	188	8.96			
		社会福祉学科	131	1.49		GC 学科	206	2.27		看護学専攻	47	2.47		看護学専攻	47	2.07		看護学専攻	47	2.07		看護学専攻	47	2.07		看護学専攻	47	2.07		看護学専攻	47	8.96			
		人間科学科	200	1.40		社会福祉学科	200	2.17		人間科学科	187	2.63		人間科学科	200	2.07		人間科学科	200	2.07		人間科学科	200	2.07		人間科学科	200	2.07		人間科学科	200	8.43			
		GC 学科	206	1.32		社会福祉学科	131	2.11		GC 学科	206	2.23		GC 学科	206	1.70		GC 学科	206	1.70		GC 学科	206	1.70		GC 学科	206	1.70		GC 学科	206	7.83			

：セグメント内でスコアに有意差がある (一元配置  $P<0.05$ )  
 ] : 2つの属性間でスコアに有意差がある (多重比較  $P<0.05$ )

### ③ 「出身地」の違い

表6に「出身地」別の結果を示す。

「基本特性」として、「留学生」は「ジェネリック・スキル」全てのカテゴリーで高いスコアを示した。「やり遂げる力」および「GS」では「出身地」間で差が見られ、どちらも「留学生」は「関東」出身者より有意に高いスコアを示した。

受講後および「変化量」は「気づく力」以外、「出身地」間で差はなかった。

興味深い点は、「基本特性」として、「留学生」が全てのカテゴリーで高いスコアを示し、自己評価で自信の高さを伺わせたが、受講後の「変化量」は一番低かった。それでも、受講後「GS」で高いスコアを示すことから、グループワークで「留学生」はキーパーソンとして、日本人学生の刺激となるような活用が考えられる。また、「出身地」間で「変化量」は有意差がないものの、「北海道」、「四国」出身者の「変化量」は低く、これらの「属性」への対応も検討される。

表6 「ジェネリック・スキル」のスコア（出身地別）

セグメント	調査	ジェネリック・スキルスコア（出身地別）																			
		カテゴリー（質問番号）																			
		気づく力 (46-50)				考え抜く力 (51-55)				聴き・伝える力 (56-60)				やり遂げる力 (61-65)				GS 合計 (46-65)			
属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差		
基本特性	留学生	留学生	52	18.29	n.s.	留学生	52	16.46	n.s.	留学生	52	17.37	n.s.	留学生	52	17.46	n.s.	留学生	52	69.58	n.s.
		中国	23	17.74		北海道	19	15.95		九州・沖縄	51	16.71		九州・沖縄	51	16.57		九州・沖縄	51	65.94	
		四国	13	17.69		四国	13	15.77		四国	13	16.69		中部	135	16.37		四国	13	65.92	
		北海道	19	17.63		東北	96	15.64		中国	23	16.30		東北	96	16.11		中部	135	65.62	
		中部	135	17.50		中国	23	15.61		近畿	30	16.27		関東	1403	16.02		東北	96	65.23	
		東北	96	17.27		中部	135	15.56		東北	96	16.21		四国	13	15.77		中国	23	65.00	
		九州・沖縄	51	17.24		九州・沖縄	51	15.43		中部	135	16.19		北海道	19	15.58		北海道	19	64.84	
		関東	1403	17.12		近畿	30	15.23		関東	1403	16.12		近畿	30	15.53		関東	1403	64.48	
		近畿	30	16.93		関東	1403	15.21		北海道	19	15.68		中国	23	15.35		近畿	30	63.97	
		東北	30	19.70		中国	23	18.22		九州・沖縄	51	19.92		九州・沖縄	51	18.65		九州・沖縄	51	76.18	
出身地	留学生	東北	96	19.57	n.s.	九州・沖縄	51	18.16	n.s.	近畿	30	19.63	n.s.	留学生	52	18.54	n.s.	留学生	52	75.08	n.s.
		中国	23	19.57		東北	96	18.10		留学生	52	19.29		中部	135	18.46		東北	96	74.98	
		九州・沖縄	51	19.45		留学生	52	18.02		東北	96	19.03		東北	96	18.27		中国	23	74.96	
		中部	135	19.35		北海道	19	17.95		中部	135	18.98		四国	13	18.23		近畿	30	74.93	
		留学生	52	19.23		四国	13	17.92		中国	23	18.96		中部	135	74.90					
		四国	13	18.77		中部	135	17.81		関東	1403	18.94		関東	1403	18.21		関東	1403	73.56	
		関東	1403	18.75		関東	1403	17.66		四国	13	18.62		近畿	30	17.97		四国	13	73.54	
		北海道	19	18.37		近畿	30	17.63		北海道	19	18.16		北海道	19	17.37		北海道	19	71.84	
		近畿	30	2.77		九州・沖縄	51	2.73		近畿	30	3.37		中国	23	2.87		近畿	30	10.97	
		東北	96	2.30		中国	23	2.61		九州・沖縄	51	3.22		四国	13	2.46		九州・沖縄	51	10.24	
変化量	留学生	九州・沖縄	51	2.22	n.s.	東北	96	2.47	n.s.	東北	96	2.82	n.s.	近畿	30	2.43	n.s.	中国	23	9.96	n.s.
		中部	135	1.84		関東	1403	2.45		関東	1403	2.81		関東	1403	2.18		東北	96	9.75	
		中国	23	1.83		近畿	30	2.40		中部	135	2.79		東北	96	2.16		関東	1403	9.07	
		関東	1403	1.63		中部	135	2.26		中国	23	2.65		中部	135	2.09		中部	135	8.98	
		四国	13	1.08		四国	13	2.15		北海道	19	2.47		九州・沖縄	51	2.08		四国	13	7.62	
		留学生	52	0.94		北海道	19	2.00		四国	13	1.92		北海道	19	1.79		北海道	19	7.00	
		北海道	19	0.74		留学生	52	1.56		留学生	52	1.92		留学生	52	1.08		留学生	52	5.50	

□ : セグメント内でスコアに有意差がある（一元配置  $P < 0.05$ ）  
 □ : 2つの属性間でスコアに有意差がある（多重比較  $P < 0.05$ ）

### ④ 「部活経験」の違い

表7に「部活経験」別の違いを示す。

「基本特性」として、「考え抜く力」は「部活経験」により差がみられ、「複数活動」経験者のスコアは「体育会系」のみの経験者より有意にスコアが高かった。しかし、受講後全てのカテゴリーで、「部活経験」による差は見られなかった。

「変化量」は、「考え抜く」で、「部活経験」間で有意な差があったが、「属性」間同士では有意な差は見られなかった。

表7 「ジェネリック・スキル」のスコア（部活経験別）

		ジェネリック・スキルスコア（部活経験別）															
		カテゴリ（質問番号）															
セグメント	調査	気づく力 (46-50)				考え抜く力 (51-55)				働き・伝える力 (56-60)				やり遂げる力 (61-65)			
		属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差	属性	n	スコア	有意差
基本特性	サークル		51	17.49		複数	90	16.22		サークル	51	16.65		体育会系	1150	16.16	
	複数		90	17.40		サークル	51	15.80		複数	90	16.47		サークル	51	16.16	
	文科系		422	17.24	n.s.	文科系	422	15.50		体育会系	1150	16.26	n.s.	なし	109	16.03	n.s.
	なし		109	17.19		なし	109	15.26		なし	109	16.05		複数	90	15.94	
	体育会系		1150	17.17		体育会系	1150	15.17		文科系	422	15.93		文科系	422	15.94	
	複数		90	19.26		複数	90	18.21		複数	90	19.24		体育会系	1150	18.38	
	体育会系		1150	18.97		体育会系	1150	17.75		体育会系	1150	19.06		複数	90	18.12	
	サークル		51	18.78	n.s.	サークル	51	17.69	n.s.	サークル	51	18.86	n.s.	文科系	422	18.04	n.s.
	なし		109	18.76		文科系	422	17.66		文科系	422	18.83		なし	109	17.84	
	文化系のみ		422	18.68		なし	109	17.39		なし	109	18.61		サークル	51	17.73	
	複数活動		90	1.86		体育会系	1150	2.59		文科系	422	2.90		体育会系	1150	2.23	
	体育会系		1150	1.79		文科系	422	2.16		体育会系	1150	2.80		複数活動	90	2.18	
変化量	なし		109	1.57	n.s.	なし	109	2.13		複数活動	90	2.78	n.s.	文科系	422	2.10	n.s.
	文科系		422	1.44		複数活動	90	1.99		なし	109	2.56		なし	109	1.82	
	サークル		51	1.29		サークル	51	1.88		サークル	51	2.22		サークル	51	1.57	

：セグメント内でスコアに有意差がある（一元配置  $P<0.05$ ）

：2つの属性間でスコアに有意差がある（多重比較  $P<0.05$ ）

受講後全てのカテゴリで、「部活経験」間にスコアの有意差はないが、「複数部活」または「体育系」経験者のスコアは高く、また「変化量」で「体育会系」が高い。このプログラムは、「体育系」出身者や「複数部活」経験者など、集団生活や部活に積極的な「属性」の反応が良く、このプログラムの大きな特徴と考えられる。

「体育系」出身者と「複数部活」経験者のプログラムの影響について、2つの可能性が考えられる。まず、「体育系」出身者は、スポーツ現場における集団行動・生活が多く、「自己の探求」プログラムの「チームビルディング」体験に類似したコミュニケーション体験をしてきた可能性が高い。よって、その体験により多くの対応するコミュニケーションスキルを持ち合わせており、プログラムの進行に伴い他に比べより強い影響を受けたと考えられる。また、このプログラムが多くのスポーツチーム育成「チームビルディング」に貢献してきた実績の裏付けとも言える。

次に「複数部活」経験者についてだが、一見、いくつもの部活動を乗り換える一つのことが続かない人間のように捉えられるかもしれないが、多種多様な「チームビルディング」体験をしてきたと捉えることもできる。社会には多くのチーム（家族、学校、サークル、会社等々）が存在し、その幾つかのチームに属し生活をしている。多種多様な「チームビルディング」体験をしてきた可能性のある「複数部活」経験者は、このような社会的チームに幾つか属しながらの生活の中でも、その体験値を活かして生きているのではないだろうか。よって、このプログラム中も多種多様な「チームビルディング」体験値からの多種多様なコミュニケーションスキルにより影響を大きく受けたと考えられる。

### 3.3. 「生活満足度」「人間関係満足度」「就職意識」について

#### 3.3.1. 基本特性

「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」に関する「属性」の「基本特性」の違いを表8に示す。

学内や学外の「生活満足度」では「女性」が「男性」より有意にスコアが高く、「学科」間でも有意な差があった。「属性」同士の多重比較では、「都市環境専攻」は「経済学科」、

表8 「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」スコア（自己の探求受講前）

「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」(「自己の探求」受講前)												
質問(番号)	生活満足度 (66 + 69)				人間関係満足度 (67 + 68)				就職意欲 (70)			
セグメント	属性	n	スコア	有意差	カテゴリ(属性)	n	スコア	有意差	カテゴリ(属性)	n	スコア	有意差
全体	全体	1822	7.11		全体	1822	7.67		全体	1822	4.43	
性別	女性	1137	7.18		女性	1137	7.72		女性	1137	4.48	
	男性	685	7.01		男性	685	7.59	n.s.	男性	685	4.33	
学科	都市環境専攻	47	7.79		児童教育学科	188	8.07		看護学科	109	4.75	
	児童教育学科	188	7.60		経営学科	199	7.82		児童教育学科	188	4.61	
	看護学科	109	7.30		看護学科	109	7.72		薬学科	146	4.58	
	社会福祉学科	131	7.23		環境学専攻	63	7.71		経済学科	108	4.56	
	人間科学科	200	7.13		経済学科	108	7.69		社会福祉学科	131	4.52	
	GC 学科	206	7.11		GC 学科	206	7.67		経営学科	199	4.47	
	環境学専攻	63	7.10		都市環境専攻	47	7.66		環境学専攻	63	4.43	
	政治学科	94	7.07		社会福祉学科	131	7.64		政治学科	94	4.40	
	日本文学文化学科	187	7.02		薬学科	146	7.61		日本文学文化学科	187	4.38	
	法律学科	144	6.94		法律学科	144	7.54		GC 学科	206	4.32	
	薬学科	146	6.92		人間科学科	200	7.53		法律学科	144	4.28	
	経営学科	199	6.85		政治学科	94	7.49		都市環境専攻	47	4.21	
	経済学科	108	6.77		日本文学文化学科	187	7.47		人間科学科	200	4.10	
出身	中部	135	7.47		中国	23	7.96		九州・沖縄	51	4.55	
	中国	23	7.43		九州・沖縄	51	7.82		中部	135	4.50	
	東北	96	7.25		関東	1403	7.70		関東	1403	4.46	
	九州・沖縄	51	7.12		東北	96	7.63		北海道	19	4.37	
	関東	1403	7.09	n.s.	中部	135	7.61	n.s.	東北	96	4.36	
	留学生	52	6.87		近畿	30	7.60		中国	23	4.17	
	北海道	19	6.79		北海道	19	7.32		近畿	30	3.90	
	近畿	30	6.77		留学生	52	7.17		四国	13	3.85	
	四国	13	6.23		四国	13	7.00		留学生	52	3.75	
	部活経験	文科系	422	7.20		体育会系	1150	7.80		体育会系	1150	4.47
体育会系		1150	7.12		サークル	51	7.71		文科系	422	4.44	
複数活動		90	7.02	n.s.	複数活動	90	7.49		複数活動	90	4.31	
サークル		51	6.98		文科系	422	7.45		サークル	51	4.29	
なし		109	6.83		なし	109	7.24		なし	109	4.11	

□ : セグメント内でスコアに有意差がある (一元配置  $P < 0.05$ )

□ : 2つの属性間でスコアに有意差がある (多重比較  $P < 0.05$ )

「経営学科」より有意に高く、同様に「児童教育学科」は、「経済学科」、「経営学科」、「薬学科」、「法律学科」、「日本文学文化学科」より有意に高いスコアを示した。

「人間関係満足度」でも、「学科」間で有意差が見られ、「児童教育学科」は「日本文学文化学科」や「人間科学科」より有意に高くなった。また、「部活経験」間でも差が見られ、「体育会系」経験者は「文科系」や部活経験「なし」より有意に高いスコアを示した。

「就職意欲」は、「女性」は「男性」より有意に高かった。また、「学科」間で有意な差があり、「看護学科」のスコアが高く、「人間科学科」のスコアが一番低い。「属性」同士では、「看護学科」は「人間科学科」、「法律学科」、「GC 学科」、「日本文学文化学科」、「経営学科」より有意に高く、一方、「人間科学科」は「児童教育学科」、「薬学科」、「経済学科」、「社会福祉学科」、「経営学科」より有意に低かった。

「出身地」間で「就職意欲」に有意差があり、「留学生」は「九州・沖縄」、「中部」、「関東」出身者より有意にスコアが低かった。「部活経験」別でも、「就職意欲」に差が見られ、部活経験「なし」は「体育会系」、「文化系」より有意にスコアは低かった。

「生活満足度」で上位3学科は「都市環境専攻」、「児童教育学科」、「看護学科」、「人間関係満足度」での上位3学科は「児童教育学科」、「経営学科」、「看護学科」であった。さらに、「就職意欲」は、免許取得ができ、将来の職業のイメージが付きやすい「看護学科」、「児童教育学科」、「薬学科」が高いスコアを示したこと、「留学生」のスコアが低いのも理解できる。注目すべき点は、3つのカテゴリ全てに、「看護学科」と「児童教育学科」が高いスコアを示した点であり、この特性を維持発展させていくことが望まれる。「部活経験」で「なし」の属性が「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」において、低いスコアを

示したことは、その活動性の低さによるものと考えられ、この「属性」の適切な指導が必要と考えられる。一方、「人間関係満足度」、「就職意欲」で「体育会系」経験者が高いスコアを示したことは、活動性の高さを表している。特に「人間関係満足度」については、人間関係に弊害や障害もなく生きてきた人生観の人間よりも、それらを乗り越えたり共に共有し達成したりという体験をしていることが顕著である。そのインパクトの強い体験値がより高い「チームビルディング」体験を与え、人間関係を深め、互いを理解する他者理解に繋がり、さらなる自己理解が進んだ結果であると考えられる。

### 3.3.2. 各属性で変化したか

「自己の探求」受講前・後の「生活満足度」「人間関係満足度」「就職意識」のスコア結果を表9に示す。

「生活満足度」では全ての「属性」で有意にスコアが高くなり、「人間関係の満足」においても「中国」、「四国」、「サークル」以外のほとんどの属性で有意に高くなった。これは、「自己の探求」というグループワークのアクティビティが、わずか2日間の集中授業でありながら、入学後間もない新生が、集中して語り合うことで「生活満足度」や「人間関係満足度」のスコアに影響し、インパクトの大きさが推察される。一方、「就職意欲」は、「男

表9 「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」スコア

		「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」スコア																					
		カテゴリ（質問番号）																					
セグメント	属性	生活満足度 (66 + 69)							人間関係満足度 (67 + 68)							就職意欲 (70)							
		スコア値範囲 (2-10)							スコア値範囲 (2-10)							スコア値範囲 (1-5)							
		人数	基本特性	標準偏差	受講後	標準偏差	変化量	標準偏差	有意差	基本特性	標準偏差	受講後	標準偏差	変化量	標準偏差	有意差	基本特性	標準偏差	受講後	標準偏差	変化量	標準偏差	有意差
全体	全体	1822	7.11	1.67	7.92	1.65	0.81	1.30		7.67	1.62	8.19	1.53	0.52	1.28		4.43	0.89	4.51	0.83	0.08	0.71	
性別	男性	685	7.01	1.76	7.96	1.72	0.95	1.35		7.59	1.70	8.20	1.57	0.60	1.37		4.33	0.97	4.48	0.87	0.15	0.76	
	女性	1137	7.18	1.61	7.90	1.60	0.72	1.26		7.72	1.57	8.18	1.51	0.47	1.23		4.48	0.84	4.53	0.81	0.04	0.68	
学科	法学学科	144	6.94	1.82	7.86	1.89	0.92	1.39		7.54	1.87	8.13	1.75	0.58	1.33		4.28	1.08	4.42	1.00	0.13	0.71	
	政治学科	94	7.07	1.66	8.03	1.41	0.96	1.18		7.49	1.83	8.23	1.40	0.74	1.36		4.40	0.90	4.51	0.76	0.11	0.65	n.s.
	経済学科	108	6.77	1.56	7.80	1.62	1.03	1.22		7.69	1.63	8.30	1.55	0.61	1.31		4.56	0.73	4.67	0.67	0.11	0.62	n.s.
	経営学科	199	6.85	1.57	7.78	1.65	0.93	1.31		7.82	1.61	8.24	1.42	0.42	1.26		4.47	0.85	4.58	0.77	0.11	0.61	
	日本文学文化学科	187	7.02	1.72	7.64	1.72	0.61	1.24		7.47	1.64	7.91	1.55	0.45	1.15		4.38	0.90	4.43	0.88	0.05	0.73	n.s.
	GC 学科	206	7.11	1.74	7.73	1.78	0.62	1.47		7.67	1.56	8.00	1.59	0.33	1.40		4.32	1.01	4.31	0.96	-0.01	0.91	n.s.
	人間科学科	200	7.13	1.62	7.89	1.60	0.76	1.27		7.53	1.56	8.09	1.51	0.56	1.28		4.10	1.04	4.24	1.03	0.14	0.81	
	社会福祉学科	131	7.23	1.84	7.96	1.70	0.73	1.24		7.64	1.62	8.27	1.67	0.63	1.14		4.52	0.72	4.61	0.63	0.09	0.59	n.s.
	環境学専攻	63	7.10	1.70	7.84	1.77	0.75	1.20		7.71	1.49	8.06	1.58	0.35	1.26		4.43	0.82	4.43	0.87	0.00	0.57	n.s.
	都市環境専攻	47	7.79	1.57	8.47	1.28	0.68	1.38		7.66	1.74	8.28	1.44	0.62	1.53		4.21	1.00	4.43	0.83	0.21	0.78	n.s.
	児童教育学科	188	7.60	1.42	8.40	1.42	0.80	1.14		8.07	1.44	8.62	1.40	0.55	1.26		4.61	0.70	4.68	0.68	0.07	0.64	n.s.
	薬学科	146	6.92	1.77	7.91	1.57	0.99	1.44		7.61	1.59	8.17	1.35	0.56	1.36		4.58	0.84	4.73	0.54	0.14	0.84	
	看護学科	109	7.30	1.51	8.12	1.56	0.82	1.23		7.72	1.53	8.25	1.55	0.53	1.11		4.75	0.56	4.74	0.61	-0.01	0.40	n.s.
	北海道	19	6.79	1.81	7.53	1.54	0.74	1.10		7.32	1.86	7.74	1.79	0.42	0.84		4.37	0.96	4.26	0.87	-0.11	0.57	n.s.
出身地	東北	96	7.25	1.67	7.97	1.66	0.72	1.12		7.63	1.68	8.10	1.59	0.48	1.22		4.36	0.95	4.54	0.78	0.18	0.74	
	関東	1403	7.09	1.67	7.90	1.64	0.81	1.32		7.70	1.60	8.21	1.52	0.51	1.29		4.46	0.85	4.53	0.81	0.07	0.69	
	中部	135	7.47	1.57	8.25	1.60	0.79	1.18		7.61	1.68	8.20	1.53	0.59	1.10		4.50	0.85	4.64	0.70	0.14	0.62	
	近畿	30	6.77	1.83	7.83	1.72	1.07	1.17		7.60	2.16	8.27	1.34	0.67	1.60		3.90	1.37	4.27	1.11	0.37	1.16	n.s.
	中国	23	7.43	1.59	8.22	1.28	0.78	1.31		7.96	1.49	8.30	1.40	0.35	1.15	n.s.	4.17	1.07	4.43	0.79	0.26	0.92	n.s.
	四国	13	6.23	2.01	7.15	1.77	0.92	1.32		7.00	1.87	7.54	1.45	0.54	1.81	n.s.	3.85	1.07	3.92	1.04	0.08	0.49	n.s.
	九州・沖縄	51	7.12	1.62	8.06	1.65	0.94	1.22		7.82	1.47	8.41	1.53	0.59	1.30		4.55	0.86	4.59	0.75	0.04	0.63	n.s.
	留学生	52	6.87	1.67	7.50	1.93	0.63	1.50		7.17	1.44	7.67	1.54	0.50	1.57		3.75	1.17	3.79	1.14	0.04	1.10	n.s.
部活動経験	体育会系	1150	7.12	1.66	8.00	1.58	0.88	1.28		7.80	1.60	8.30	1.50	0.49	1.28		4.47	0.87	4.57	0.78	0.10	0.72	
	文科系	422	7.20	1.70	7.82	1.73	0.62	1.25		7.45	1.71	7.97	1.65	0.52	1.21		4.44	0.86	4.45	0.90	0.01	0.61	n.s.
	サークル	51	6.98	1.90	7.69	2.05	0.71	1.51		7.71	1.49	8.00	1.55	0.29	1.39	n.s.	4.29	0.99	4.25	1.16	-0.04	0.80	n.s.
	複数活動	90	7.02	1.63	8.04	1.73	1.02	1.45		7.49	1.52	8.32	1.29	0.83	1.38		4.31	1.05	4.57	0.75	0.26	0.87	
	なし	109	6.83	1.63	7.49	1.70	0.65	1.42		7.24	1.45	7.84	1.43	0.61	1.41		4.11	0.98	4.24	0.87	0.13	0.73	n.s.

：各属性において受講前・後のスコア値が有意差あり（対応のあるt検定 P<0.05）

女」とともに前後でスコア値に差が見られたが、「学科」、「出身地」、「部活経験」のそれぞれの属性の半数以上では前後で差が見られなかった。これは、「自己の探求」のグループワーク自体は、直接的に「就職意識」に関与する内容ではなく、その影響は少ないと考えられ、極めて妥当な結果であった。

② 「ジェネリック・スキル」、「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」の相関関係  
「自己の探求」受講後の、「ジェネリック・スキル」の構成カテゴリー「気づく力」、「考え抜く力」、「聴き・伝える力」、「やり遂げる力」、および「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」の7つのスコア間での相関性をみるため、ピアソンの相関係数 ( $r$ ) を求めた。

表 10 に結果を示した。「ジェネリック・スキル」の「気づく力」、「考え抜く力」、「聴き・伝える力」、「やり遂げる力」の各カテゴリー同士の相関係数は、 $0.4 < r < 0.7$  の範囲となり、全てのカテゴリー同士は相関性があった。「生活満足度」と「やり遂げる力」、「聴き・伝える力」、「気づく力」でも、また「人間関係満足度」と「聴き・伝える力」においても相関係数は  $0.4 < r < 0.7$  となり、相関性が見られた。さらに「生活満足度」と「人間関係満足度」の相関係数は、 $r = 0.678$  であり、組み合わせの中で最も強い相関性を示した。一方、「就職意欲」とはどのカテゴリーも相関性を示すものはなかった。

以上より、因果関係を論ずることはできないが、「ジェネリック・スキル」のカテゴリー同士は相互に相関性があり、それぞれの能力同士密接に関係している。「聴き・伝える力」というコミュニケーション力は、「生活満足度」や「人間関係満足度」両者に関連する能力である。「生活満足度」や「人間関係満足度」は最も相関が強いことが示された。大学生活を豊かにするために、「聴き・伝える力」、「生活満足度」、「人間関係満足度」相互を高める方法論の検討が必要と考えられる。

表 10 ピアソンの相関係数 ( $r$ ) (「自己の探求」受講後)

	気づく力	考え抜く力	聴き・伝える力	やり遂げる力	生活満足度	人間関係満足度	就職意欲
気づく力	1	.641	.583	.622	.432	.364	.196
考え抜く力	.641	1	.611	.602	.351	.302	.148
聴き・伝える力	.583	.611	1	.630	.449	.432	.240
やり遂げる力	.622	.602	.630	1	.463	.388	.211
生活満足度	.432	.351	.449	.463	1	.678	.284
人間関係満足度	.364	.302	.432	.388	.678	1	.299
就職意欲	.196	.148	.240	.211	.284	.299	1

$0.0 < r < 0.2$  : ほとんど相関がない

$0.2 < r < 0.4$  : 弱い相関がある

$0.4 < r < 0.7$  : 相関がある

$0.7 < r < 1$  : 強い相関がある

#### 4. まとめ

今回、川上らの「ジェネリック・スキル」のツールを使用して、既に中村らにより「社会人基礎力」向上に効果が検証されている「自己の探求」を「汎用的能力」の面からその効果を探索的に調査した。パイロットスタディの要素を含んだ調査であり、いささか分析不足の面も否めないものの、次のようなことが示された。

1. 「ジェネリック・スキル」および「生活満足度」、「人間関係満足度」は「自己の探求」受講後有意に増加した。
2. 「ジェネリック・スキル」全体を示す「GS」で、受講後「男性」が有意に高くなった。
3. 「学科」別では、受講後全てのカテゴリーで有意差を示し、特に「聴き・伝える力」において、人を中心に学習していく「学科」は、いわゆる理科系「学科」より高いスコアを示した。
4. 「出身地」別では、「留学生」は受講前、全てのカテゴリーで高いスコアを示したが、受講後順位を落とした。「気づく力」以外「出身地」間の有意差はなかった。
5. 「部活経験」別では、受講後全てのカテゴリーで有意差はなかったが、「複数部活」または「体育系」経験者のスコアは高くなった。
6. 「生活満足度」、「人間関係満足度」、「就職意欲」で「女性」のスコアが高く、また全てが「学科」間で有意差があった。「就職意欲」は免許取得可能学科で高かった。

これらから次のような提案が考えられる。

1. 本学全体の「ジェネリック・スキル」の向上を考える時、全般的にプログラム反応の良い「体育系」部活経験者、「男性」をうまく活用し、かつ反応が低い、部活経験「なし」の学生に組織活動に参加するよう指導する。
  2. 理科系学部の学生にコミュニケーション能力向上の施策を検討する。
  3. 「就職意欲」向上のために「日本文学文化学科」、「GC 学科」、「法律学科」、「都市環境専攻」、「人間科学科」、「留学生」、部活経験「なし」学生への対策を行う。
- 「人間力」、「社会人基礎力」、「就職基礎能力」、「学士力」全ての基礎となるのは「ジェネリック・スキル」である。本調査により、「自己の探求」は、「ジェネリック・スキル」向上に寄与するプログラムであることが検証された。今回、探索的な知見であり、今後さらなる検討が必要である。

## 参考文献

- 1) 人間力戦略研究会：人間力戦略研究会報告書 若者に夢と目標を抱かせ、意欲を高める～信頼と連携の社会システム～ 平成 15 年 4 月 10 日、内閣府。 <http://www5.cao.go.jp/keizai1/2004/ningenryoku/0410houkoku.pdf>, (参照 2015-09-09)
- 2) 若年者就職基礎能力修得のための目安委員会：若年者就職基礎能力修得のための目安委員会報告書 平成 16 年 7 月、厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/07/dl/h0723-4h.pdf>, (参照 2015-09-09)
- 3) 社会人基礎力に関する研究会：中間取りまとめ 平成 18 年 1 月 20 日、経済産業省。 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/chukanhon.pdf>, (参照 2015-09-09)
- 4) 「学士課程教育の構築に向けて」中央教育審議会答申の概要 平成 20 年 12 月、文部科学省。 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu4/siryo/attach/1247211.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu4/siryo/attach/1247211.htm), (参照 2015-09-09)
- 5) 若年者の就職を支援する YES-プログラムにおいて就職基礎能力を修得するための講座・試験を認定、厚生労働省。 <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/07/h0723-4.html>, (参照 2015-09-09)



- 6) 「社会人基礎力育成グランプリ」. 経済産業省. <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/gp.html>, (参照 2015-09-09)
- 7) 「人間力」「社会人基礎力」「就職基礎力」. 文部科学省. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2010/05/25/1293956\\_2\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2010/05/25/1293956_2_1.pdf), (参照 2015-09-09)
- 8) 川上正浩：総合の人間力を育てるサイクルプロジェクト. 大阪樟蔭女子大学. <https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/gp/events/sicle/200803/report/pdf/report.pdf>, (参照 2014-01-15)
- 9) 最終報告書 現代 GP 第3回シンポジウムをふまえて. 大阪樟蔭女子大学. <http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/gp/events/sicle/201002/report/>, (参照 2014-01-15)
- 10) 中村剛、熊谷太郎：武蔵野大学における初年次教育「武蔵野 BASIS」の効果—自己の探求プログラムの効果検証—. 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis. 2015; 5 : 89-100

謝辞：今般の調査に関し、「ジェネリック・スキル」のツールの使用を承諾いただいた、大阪樟蔭女子大学教授川上正弘氏に感謝申し上げます。